

## 学校のちよつといひ話 10

### 水を飲めるのは 誰のおかげかな

七月の下旬、学校近くの道路で水道管の取り替え工事がありました。六年生は、校外学習の帰り道に、迂回して学校に戻ることになりました。その時、子供たちは「こんなに暑いのに遠回りかよ」と口々に言いながら、作業する作業員の姿を見ながら不満顔で通り過ぎました。

その様子を見ていた校長先生は、子供が全員通り過ぎるのを見届けた後、「ありがとう、暑いのご苦労さま」と笑顔で声をかけました。作業員の方々は校長先生の言葉に笑顔で小さくうなずきました。

学校に着くと、子供たちはみんな争うように、水飲み場に殺到し、蛇口に口を近づけ、水を飲みました。

一段落した後、校長先生は「校外学習の話」をする予定でしたが、急遽変更し、次のように話

し出しました。「今、学校近くの道路が工事中で、みんなは遠回りして学校に帰ってきました。

みんなは疲れていて不満顔で工事現場を通り過ぎたね。そして今、みんなは、喉が渴いたと、我先に水道の蛇口をひねり、水を飲みましたね。みんなは何も感じないようだから言いますが、蛇口をひねって水が飲めるのは、誰のお陰ですか？あの水道工事をしている人のお陰ではないのですか」

三人の担任の先生方も恥ずかしそうに聞いていました。その日の夕方、六年生のA君は、お母さんと外出してその水道工事の迂回道を再び通りました。その時、A君は校長先生の言葉を思い出し、「ありがとう」と声をかけて通り過ぎました。その瞬間、作業員の方々は笑顔でうなずきました。この時のことをA君は個人ノートに書いて担任に伝えました。(A)

### 「笑顔」のちから

A校長が着任して二ヶ月が過ぎた頃でした。昼休みに四年生のM子とこんな会話をした。

「校長先生っていいよね」「どうしてだい？」「だって、校長先生はいつもニコニコしているでしょ。それって、いつも嬉しいうことがあつてことでしょ」「と、とんでもないよ、校長先生の仕事はとんでも大変で、辛いことばかりだよ」

「じゃあどうしてニコニコしているの？」

「どうしてって、辛くていやなことが多いからニコニコしているんだよ」「なにそれ、バカみたい」「M子ちゃん、あなたは勘違いしているよ」「何が、ですか？」「M子ちゃんは嬉しいことや楽しい時だけニコニコするということ？」

「誰だってそうでしょ。苦しい時や悲しい時は皆泣きたくなるし、暗い表情になるでしょ。ニコニコなんてできないわよ」

「そこなんだよM子ちゃん、校長先生の言いたいところは！」  
と喋ってM子に質問をした。

「苦しい時や悲しい時に暗い表情をすれば、その苦しさや悲しさはなくなるの？ 逆でしょう。それを大きくしたり、新たな苦しさや悲しさを呼び込んでしまったりするんだよ。M子ちゃんは『泣きつ面に蜂』という諺を知っているでしょ。それはそのことを言っているんだよ」

「だから、M子ちゃん！ 苦しく悲しい時にこそ、笑顔だよ。作り笑いでもいいからニコニコすると気持ち少し楽になるよ。そしていつもニコニコしているとね、神様は『ああ、この子は、ニコニコが好きなんだ。それならニコニコすることを一杯授けてあげよう』と、苦しいことや悲しいことを消してくれるんだ」  
すると今度はM子が声を荒げて言った。「お正月にやったかたで『笑う門に福来る』があることを思い出した！」

夏休みを控えた、ある暑い日にM子の母親が校長室を訪れた。娘が最近明るくなったという。先日も些細なことで夫婦喧嘩をしてしまったが、娘が「ママ怖い顔！ こんな時こそ、笑顔だよ」と真顔で訴えたという。(Y)